

第8回 武蔵野市男女共同参画推進市民会議（第2期）会議録

日 時	平成22年4月26日（月） 午後7時～9時
場 所	武蔵野商工会館 第1会議室
出席者 （敬称略）	委 員・・・栗原毅、作部径子、千田有紀（副委員長）、高田素子（委員長）、 内藤博子、山田史野、若槻善隆 事務局・・・市民協働推進課男女共同参画担当職員 傍聴者・・・2名
議 題	1 今までの総括 2 意見書の執筆担当決めについて 3 その他
議事要旨	<p>1、今までの総括及び意見書の執筆について（内容、担当）の検討 配布資料、「平成21年度 武蔵野市男女共同参画推進市民会議 問題点の整理 2010/4/26」（委員長作成）について委員長が説明し、意見交換を行った。</p> <p><委員長からの発言></p> <p>今まで話し合ってきたことを、報告書作成に向けてどのような形でまとめていったらよいか話し合いたい。今回の会議の役割として、重要課題や優先順位など進捗の質的評価をどうするか、時間的な問題を入れながら評価していけないかという意見があった。（以下、資料にそって説明。）</p> <p>基本目標Ⅰ（男女がともに仕事と家庭、地域生活の調和を図ることのできる環境の整備）について</p> <p>■ ワークライフバランスに関しては、働きたい子育て世代の足かせを外すという意味で、待機児童解消、学童保育やファミリーサポート事業の充実、また、子育て自主グループや父親の子育てなどの問題を、子どもプランへの提言という形で出した。</p> <p>基本目標Ⅱ（男女が互いの性と人権を尊重し、心身ともに健康で自立した生き方を選択できるしくみづくり）について</p> <p>■ 女性相談の強化と、DV基本計画に、武蔵野市は若い世代や単身世帯、学生も多い町なので、その特徴にふさわしいテーマを盛り込めるといい。</p> <p>健康に関しては、子宮頸がんのワクチンの公費負担とそれに対する情報提供、それに若い世代に対する性に関する情報発信も大切だ。</p>

基本目標Ⅲ(男女平等意識の浸透と自立意識の確立)について

- 学校の教職員は、ジェンダー視点での研修などが必要なのではないか。
また総合学習や道徳教育だけでは、男女共同参画に関することまではなかなか盛り込まれないので、教科の見直しや働く女性をロールモデルにしたキャリア教育などを積極的に取り入れられないだろうか。
性教育は、男女共修で生き方の問題として学ぶ機会が必要だ。
女性の管理職の積極的登用は、奨励などのかけ声だけでは難しいので、具体的なプログラムとして実施していく機会が必要である。

基本目標Ⅳ(男女共同参画計画の推進体制の整備)について

- むさしのヒューマン・ネットワークセンターの拡充を優先して、相談事業やDVの庁内体制のあり方などは今後の課題である。
『まなこ』は、持続可能なシステムをこれからつくっていかねばならない。
- しっかり提言として報告書をまとめていく上で、十分話し合ってほしい。
今回委員から提出された資料を説明してほしい。

<資料提出委員からの発言>

資料「市民会議提言について」を基に説明した。

- 1、最重点課題(命に関わること)
 - ① 計画を作成している間でもDVは起こっているので、計画づくりは計画づくりとしてある程度のタイムスケジュールの中で進め、DVの相談支援については具体的な対応の仕組みの整備に取り組むことが優先される。
 - ② 医療は子宮頸がんの検診、周産期医療、乳幼児医療の拠点病院との連携について検討が必要だ。
 - ③ 感染症教育について具体的な取り組みを検討する必要がある。
 - ④ ハラスメントはDVに比べて軽い事のように聞こえるが、しっかり考えなければならないテーマである。
- 2、重点課題(生活に関わること)
 - ① 子育て支援、②介護支援は、地域で支えあうことで、ある程度サポートされる側面もあるのではないかと思う。
 - ③ 母子保健は専門的な施設や機関などの支援が重要だが、地域で支え合うことでまちづくりと連動する。
 - ④ 一人親家庭の支援は、何に困っているのか調査することから始めたらいと思う。

3、エンパワーメント（普及、啓発）

- ① 就労、起業支援は、例えば30万～40万円など少ない額の補助でもいいから、きめ細かなサポートがあれば、何か始められるという女性はいると思う。
- ② 男性の参加促進（地域活動）は、男性もエンパワーする必要がある。男性が参加できる取り組みが広まっていくといい。

4、教育

- ① 多様な性については非常に複雑で、性同一性障害の方たちは幼いころから自分の性に関して違和感を持っているが、だれにも相談できない。学校のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの方たちが、多様なあり方があるという視点を持って、子供たちの相談を受けとめられるような取り組みを進めてほしい。

また、教育現場で子どもたちが何に困っているのか、調査することも大事である。

男女共同参画という課題は先進国よりも途上国のほうが課題が大きく、過酷な労働に従事させられている女性の割合が高い。そういう途上国の現状を何とかしようとするフェアトレードの取り組み等についても学んでいくことが大事ではないかと思う。

5、推進体制（行政と市民の協働）

- ① あらゆる施策に「男女共同参画」の視点を - 計画への参加 - （担当職員、市民）ということに関しては、武蔵野市の計画に男女共同参画の視点が盛り込まれるように、計画づくりの段階で男女共同参画担当職員や、市民会議の委員、ヒューマン・ネットワークセンターの運営委員など、男女共同参画の視点を持った人が加わるようにしてほしい。

*以上、委員長の発言と重ならない事項についてのみ発言した。

<事務局>

- 今後の『まなこ』については、市民編集委員が企画編集に関わり、取材や原稿作成をする形は残しつつ、枠組みは市が決めて編集長は置かないこととする。

<各委員の発言>

基本目標Ⅰについて

- 提言するにあたって、現実感が見えるような数値的なものをきちんと出した上で、具体的な解決策を盛り込んで提言したい。例えば小学校や幼稚園の空いてい

る部屋やスペースを活かせないのか。また、現在働いていなければ子どもを保育園に入れられないというのはおかしい。専業主婦の方であっても保育園に入れることが出来るという方が、男女共同参画の視点をもった考えとしては正しいと思う。

■ NPOのフローレンスという病児保育をやっているところが、おうち保育園というのを始めたらしい。保育ママさんが空き家を借りて、保育ママ3人に対して10人ぐらいの子どもを預かるもので、待機児童解消のための1つのチョイスと考えられると思う。

■ 根本的に社会が変わってきている時期なので、システムを見直していかないといけない。待機児童が増えてきているというのは共稼ぎ世帯が増えてきているからで、男女とも働きながら地域で活動できるようなシステムをつくらなければならない時期に来ていると思う。

また、子宮頸がんの予防ワクチンは早くサポートした方がいいと思う。

■ 保育ママさんのことは、民間と協働しながらやるのも1つの方法だと思う。

■ 行政だけで情報を全部収集するのは難しい。

■ 介護保険制度のような形にする方向で進んでいる。保育が必要だと認定だけで、あとは自分で探してくださいという形にする政策のようだ。

直接請負制にすると保育園側が利用者を選ぶ形となり、収入が高い方が入りやすくなるのではないか。今は同じポイント数であれば所得の低い方のほうが入りやすいようだ。

基本目標Ⅱについて

■ 武蔵野ではないが、何年か前にやっぱり性教育の扱い方で非常に問題になった市がある。学校現場で性教育、性行為教育をやるとなると、扱いが非常に難しいと思う。

■ バックラッシュのときも焦点は過激な性教育だった。日ごろから接している人から性の教育を受けるのは難しいと思う。

DVや性教育に関しては、専門家がパッケージを出張で行うようなシステムは作れないのか。

■ 性教育の一種で、どのように人間が発達していくかというビデオを見た。

■ 市内の四小とか井之頭小で誕生学という、ずばり性教育ではないが命の尊さを主として教えるNPOがある。外部のワークショップなり講演などを随所に入れていくとやりやすいと思う。

■ 私の友人は『赤ちゃんはどこからくるの』という絵本などで知っていたので、男女の関係みたいなものをいやらしいと考える人の考え方のほうが、よくわからなかったと言っている。

- 子宮頸がんのワクチンの無料化を実施している自治体もあるようだ。
- 杉並はもう、中学1年生全員に実施している。
- 子宮頸がんのワクチンを公費負担というのも、1つの性教育と考えてもいいと思う。子宮頸がんはうつる病気で、それは何でうつるのかというところまでフォローしていけば性教育になる。

基本目標Ⅲについて

- ヒューマン・ネットワークセンターで行われた家庭科教育についての講演会を聞いたが、学校教育の中で隠れたカリキュラムというか、ジェンダーが再生産されている部分があるような気がする。小学校の男性の先生は、女性の先生に対して、自分はミシンができないから、私は何とかができないからと、当然のように女性の先生にやらせるようなことがあり、子どもがそういうことは女の人ができるものだと思ってしまう。それは植えていているところがあり、再生産している場ではないかと思った。
- 中学の場合は、以前は男子は技術科、女子は家庭科を学んだが、今は男女共修で一緒に行っている。選択の授業などでも男子が家庭科を選び、逆に技術科を女子が選ぶ事もある。
- これからは、未婚化社会で、未婚率が2割を超えている。
- 例えばアメリカでは、社会生活に必要なので、女性は車の修理もやる。
- 男性の家庭科の先生がいれば、とてもいいと思う。
- 男性の家庭科の教員が出てくるようにするには、特に教員養成大学などで、家庭科を選ぶ男子学生が出てくることだ。
- 女性も男性も同じように家庭技術を習ってくるから、技術家庭の教員になりたいという男性が、以前に比べれば増えてきたのではないだろうか。
欲を言えば、例えば教員を採用する裁量が、都から市に移管されたら、市で取り組めることが増えると思う。
- 我家は共働きで、子供達には、女の子も男の子も炊事、洗濯、掃除をさせます。学校教育も必要なのでしょうけれども、家庭教育の中で培われるものはすごく大事だと思う。
- 現在行われていないのであれば、道德の時間にキャリア教育として、働いている女性の方の話をしてもらうような時間を入れるといいと思う。
- キャリア教育の1つとして職場体験を行っているが、受け皿が少ないのが現状だ。
- 女性は「何とか士(師)」になりたがるようで、手に職をつけなければというすり込みがあるような気がする。NPOでロールモデルの出張をする話しをしたが、今やっているのは、先生方に企業で働くということについて組織図を含め教

えている。

- 主体的に選択することは大事だが、どんな選択肢があるか教えてあげないと、貧困なイメージだけで決めてしまうようなところがある。

- SSMの調査分析で、母子家庭の人の進学率を見ると格差は減っているが、大学進学はすごく開いていて、そこに明らかにジェンダーの格差があり、男の子は大学へ行くけれど、女の子は初めから働くという選択をする。

(SSM : 《 SSM survey 》 社会階層 (Social Stratification) と社会移動 (Social Mobility) に関する全国調査。日本社会の開放性と平等性を明らかにし、社会構造の国際比較を行う目的で、日本社会学会、東京大学、文部省統計数理研究所などが中心になって 1955 年の 1 回以来 10 年毎に行われている調査。)

基本目標Ⅳについて

- 基本目標Ⅳの『まなこ』は、専門家のアドバイスなどはあり得るのか。

<事務局>

- 今はヒューマンの下村センター長に適宜お伺いしながらすすめているが、システムとしてきちんと組み入れていく必要があると思う。

<各委員からの発言>

- 武蔵野市の情報誌という意味では市報で今は事足りている。『まなこ』は年 1 回でいいから、男女共同参画を考えさせるようなしっかりした読み物として、きちんと練ったものを全戸に配布され、読者の気づきとなるようであれば意味があるのかなと思う。
- この記事が役に立ったという情報も 1 つ欲しいと思う。
- あるいは基本目標の I、II、III、IV とあるが、これに沿ったものが年 1 回入っているなど、『まなこ』にしか入っていない情報があり、それが全戸配布できるのであれば、すごく意味があることだと思う。
- 全戸配布されたら子どもも読むかもしれない。
- 子どもには、学校で「子ども広報」が配られている。
- 私学は郵送で来る。
- 今の時期は移行期間ということなので、この市民会議からある程度の提言をして、持続可能な運営編集体制をつくって行くことが必要だと思う。
- 最後に、あらゆる政策に男女共同参画の視点をというのが、ぜひ進めたいことです。

<委員長の発言>

■ 9月ぐらいまでに、この報告書をまとめて提言として出したいと思う。担当を決めて、それぞれが書いたものをまとめて報告書にする。なるべく読みやすく、インパクトのある報告書がいいと思う。実現するための提言、プラス実施に向けたシナリオのようなものになるようにできればいいと思う。再来年、次の5年間の計画を立てるときに、今提言していることが次の提言として出ることもあり得るので、今回だけで実現しようと思わないで、今回これはやりたいというところを出していきたい。

★ その後、意見書執筆の担当決めをした。

<事務局>

■ 今後の日程ですが、次回は5月31日、6月は28日を予定していたが、全員が都合の良い日というのが難しく会場の都合もあり6月30日としたい。

<委員長>

■ 次回は基本目標Iについて、担当委員にたたき台を作ってきていただき検討したい。6月からは、二人ずつのペースで発言していただくかもしれないので準備をお願いしたい。

では、次回5月31日（月）よろしく申し上げます。

次 回

平成22年5月31日（月）19:00～
武蔵野商工会館 第1会議室